

小論文作成上の留意点

■小論文の審査方法

【書類審査】

- 書類審査は、①現状の把握・分析的確性、②論旨および提言の論理性・説得性、③着眼点や提言の独創性・実効性、といった諸点に照らして、決勝進出チームを厳正に選定します。

【決勝審査】

- 書類審査のポイントに加えて、④プレゼンテーションおよび質疑に対する応答の内容が審査の対象になります。

■小論文作成上の留意点

- 以下では、過去に日銀グランプリに提出された小論文を踏まえ、小論文作成上の留意点を述べたいと思います。

(1) 提言の前提となる現状把握にあたっては、事実関係の確認をきちんと行ってください。

- 提言を行おうとするテーマについて、多種多様の情報源を活用しながら事実確認をしてください。こうした作業を怠りますと、見当違いの提言や陳腐化した提言になります。
- 事実確認に際しては、そのテーマに関してすでに何らかの提言がなされている（あるいは現に行われている）か否かについても留意してください。
- 日本銀行の政策や業務をテーマとする場合には、日本銀行ホームページに掲載されている最新情報を十分に活用してください。

(2) 独自の現場調査や分析を行う余地がないか検討してください。

- 独自の現場調査は、提言がより現実的・説得的なものとなり、評価のポイントとなる可能性があります。

(3) 提言に十分な分量を割いてください。

- 5ページという限られた紙幅を有効に活かすため、問題意識、背景の記述は簡潔にとどめ、提言の説明に注力してください。
- 論旨と論理展開が追いやすい文章作成を心掛けてください。
- より良い論文を作成するため、提言について、グループ以外の方（大学の友人、ゼミの指導教員や先輩・後輩、調査先の企業の方等）に説明し、論理の一貫性が保たれているか、論理展開が結論に飛躍していないか、全体として説得的かどうか等について意見を聞くのも一つの方法です。

(4) 提言内容を具体的に示してください。

- 抽象的な内容では、提言の実効性や独創性について評価することが難しくなります。
- 過去の提言例を知りたい場合は、日本銀行ホームページに掲載されている入賞論文をご確認ください。なお、入賞論文の事例を単純に模倣・置き換えするだけの提言は、独創性の観点から評価し難いものがあります。ただし、類似した提言であっても、テーマへの新しい視点の付加、既存の提言や制度の独創的な組み合わせ、それを現実化し得る制度等の提案等を有していれば、十分に評価される可能性があります。

(5) 提言の利点や効果だけではなく、その課題やコスト・副作用も具体的に検討してください。

- 誰が、どのように、どれくらいのコスト（金銭・時間）をかけるか、現在の法制度の枠組みで可能か（あるいは変える必要があるのか）等、実現に至る過程を丁寧に記述することは、提言の説得性を高めることになります。
- 将来的なコストや副作用の軽減などについても極力論文に盛り込み、実現性に配慮した内容となるように工夫してください。

■その他の留意点

(1) 応募は未発表のものに限ります。また、二重投稿はご遠慮ください。

(2) 他者の著作を引用するときは、その旨を必ず明記してください。

- 引用の仕方については、論文作成に関する参考図書等でご確認ください。
- 直接引用せずとも、あるアイデアが先人のものである場合は、必ずその旨を明記してください。

(3) 提言中、現存する機関・企業のロゴ、キャラクターやホームページ画面等の使用、あるいは明らかにそれらを改変したとみられるものを用いる場合は、意匠権・著作権等を侵害するおそれがあります。審査に当たり、その点を加味することになります。

- 因みに、日本銀行ホームページにおける著作物については、下記URLをご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/copyright.htm/>

(4) 決勝進出チームの論文およびプレゼン資料の著作権は、日本銀行に帰属します。

(5) 以下のとおり、日本銀行ホームページに掲載します。

- 基本的にすべての応募論文について、論文のタイトル、応募者名および大学名
- 決勝進出チームの論文全文およびプレゼン資料
- 佳作チームの論文については、提言の要約

以 上